

かお

台風に詳しい気象学者で、この分野では多作家として知られる。7月には16冊目となる一般向け入門書「こちら、横浜国大『その研究室』！ 天気と気象の特別授業」（共著）が出版された。大学の外にも知識を広め、気象災害で命を落とす人をゼロにするのが目標だ。

難解なイメージがある気象学だが、分かりやすく伝える筆運びに定評がある。「まず必要なのは空を楽しむ『遊び心』」。

気象学の知識を分かりやすく伝える

徳弘 保筆

災害死、ゼロを目指す

講義でも、例えば異常気象の原因探求を犯罪捜査にたとえるなどし、学生の関心に応えている。



一方、気象災害で命を落とす人が後を絶たないことに心を痛めてきた。異常気象が人間の想定・想像を超えていく時代。災害大国で生きるには正しい知識、危険を避ける判断力がある。だが今はまだそれらが足りない。

理のいずれかを選択させている。そもそも学校に地学専門の先生がほとんどいない。例えば、東京都教育委員会は、中学・高校共通理科教員の募集を「物理・化学・生物」に限っている。「高校で地学を学んだ人が増えれば、社会全体で危険を回避する力が高まる」かもしれない。でも一朝一夕には変わらない。それなら本を書き、「つなぎ」にしようと考えた。気象学を理学部などでなく、教育学部で教える立場ならではの発想だろう。釜石市出身、岡山市育ち。44歳。

死者数 遺伝子の違い？

国際医療研 東アジアと欧州比較

新型コロナ

欧州に比べ、東アジアで新型コロナウィルスの感染者や死者が少ないのは、血

圧の調整に関係する遺伝子のわずかな違いが原因の可能性があるとする研究結果を、国立国際医療研究センターの山本直樹特任部長（ウイルス学）らのチーム

が6日までにまとめた。これまでマスク着用などの生活習慣や医療提供体制の違い、免疫の関与などさまざまな説が出ていたが、新たな見解を示した。山本

特任部長は遺伝子の違いを調べることで、「感染のしやすさや重症化のリスクを予測することができるとはないか」と考えている。チームは、新型コロナウイルスが人の細胞に侵入する際に利用することで知られているタンパク質「ACE2」と同じグループに属し、血圧の調整に関与するタンパク質「ACE1」を作る遺

伝子に着目。国内外のデータを集めて解析すると、ACE1遺伝子に特定の特徴がある人が多い東アジアの国は、この特徴がある人が少ない欧州や中東と比較して感染の報告数や100万人当たりの死者数が少ない傾向があった。肺炎などの病態にどう関与するか、同センターゲノム医学プロジェクトの溝

東京 極集中変化の兆し

としい、運営企業の広報担当者は「潜在的な地方移住の希望者がコロナ禍で背中を押され、動き始めている」

生は、地方移住や企業移転といった看板施策で成果を出せていない。むしろ好景を背景に東京圏に若年層

上雅史プロジェクト長（ヒトゲノム学）は「患者の遺伝子などを調査したい」とあるけれど、初めて公に

た」とはにかなった。市の担当者は、感

で再び広がりがつ

での再開について

梨田昌孝の 温厚知新

700試合登板の宮西 努力の鉄腕 活躍に期待